

出谷儀一 （註） 評論家。明治四十年五月五日生れ、昭和十九年八月十九日没（一九七一年）。筆名祖父江渡。昭和七年雑誌『批評』主宰、

國際學友會調査部勤務、戦後鎌倉書房庶務取締役（など）。

著譯書『最近の文學・文章研究と國語教育』（合著・千葉春雄編、昭和

七年十月）『二十の厚生圖書店』（ガブングス著、コニーチエの哲學）（譯、

昭和十五年九月）『二十のナウカ社』（ヂェイ・エム・バリ作、ロビーター・

パン）（譯、昭和十一年六月）『小山書店』『少年世界文庫』（、ツィー

サーシモンズ著『象徵主義の文學』（譯、昭和十二年二月）『十七の白

水社』（『民族文化の課題』（昭和十六年九月）『青年出版社』弘道閣『新

世代叢書』（、『西洋法師』（昭和十七年一月）『二十の道統社』（、『民

族形成と鐵の文化』（昭和十七年八月）『二十の道統社』（、『近代日本

の文學』作教論・上巻』（合著・佐藤春夫 宇野浩二監修編集、昭和十八年九月五

日）『小學校』（、『近代の鐵の文化』（昭和十九年八月）『帝國教育圖書

株式會社』（、『マインデス物語』『妖精の子』（昭和二十二年十一月

）『二十五の日本雄辯會講談社』これからの少年少女のため』（、）

リー・シエリー作、コフリンケンシエタイン』（訳、昭和二十八年八月

）『二十の日本出版協同株式會社』『サンプレス・ノングレ選集』（等。